

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3090100649		
法人名	株式会社 リバソン		
事業所名(ユニット名)	グループホームだんらん (ひまわり)		
所在地	和歌山県和歌山市小瀬田80番地の1		
自己評価作成日	平成26年11月5日	評価結果市町村受理日	平成27年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/">http://www.kai.gokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成26年12月3日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

だんらんは、運営理念である「その人らしい普通の生活を愛する地域で」のように、地域の方との関わりを大切に支援させて頂いています。車通りの少ない静かな田園地帯で安心して散歩などをして頂けます。歌のレクリエーション、個々にあった趣味(読書、工作、会話、手芸、園芸等)をともに行っています。人を愛すること、人に対しての思いやりを大切にし、一緒に悩み、考え、笑いあり、涙あり、入居者様と一緒に生活していくことを心がけます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は田園風景が広がるのどかな環境にあり、利用者や職員は隣近所の人達と日頃から気さくに挨拶や会話をし、近くの住民が気軽にホームに立ち寄り、農家が野菜を差し入れてくれるなど地域と親しく交流している。又、職員は、「その人らしい普通の暮らしを愛する地域で」という理念にそって、利用者が地域とつながりながら、家族のようなホームで、自立した明るく楽しい生活を安心して送れるよう、利用者に寄り添ったケアに日々努めている。このほか、重度化や終末期の対応として事業所では、利用者が重度化した場合には協力医や訪問看護師などの医療機関と連携を図り、看取りのニーズに対応できる体制を整えており、利用者・家族には、入居契約時に重度化した場合の対応を説明し、安心してもらえるように心がけている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	hirogaru	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を見やすい所に掲示し、管理者・職員は理念を共有し日々の方針として業務に取り組み、地域との交流に努めています。	理念を玄関や台所などの目につきやすいところに掲示して意識付けを図っている。又、管理者・職員は、理念が日々のケアに反映されているか常に話し合い、理念を共有すると共に実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方より、お米の購入や季節毎の新鮮な野菜等を頂いています。また、夏祭り等の行事にお招きし、交流を行っています。	隣近所とは、散歩時など普段から気さくに挨拶を交わしており、気軽にホームに立ち寄ってくれたり、畑の作物を差し入れてくれたり付き合いです。又、地元農家からの米の購入や、夏祭りに住民を招待したり、地域の清掃活動や美化運動にも参加するなど、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、近隣の方々との親睦を深め、介護保険や認知症高齢者について話し合いを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、入居者様状況や行事・活動報告・研修報告・感染対策・安全対策等の活動を行い、意見を頂いています。	2ヶ月に1回定期開催されており、事業所からの報告に対し、参加者から助言や意見をj得てサービスの向上に活かしている。現在、参加者は、米の購入先農家や同法人下の二つのグループホーム職員などが主で、家族や支援センター職員は日程が合わず参加が得づらい状況である。	運営推進会議は、利用者・家族はもとより、地域など外部の人の意見を得る貴重な機会であり、家族や地域住民代表、地域包括支援センター職員など、多方面からの参加が得られるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の各担当者の方とは、運営基準の内容等をお聞きしたり、介護保険課には、更新時不明な事をお聞きしています。生活支援課とは、情報交換を行っています。行政に関して、不明な事は相談させて頂いています。	市の担当課や地域包括支援センターとは、機会あるごとに相談を持ち掛けたり、事業所の実情を報告するなどして、情報の共有を図り連携を深めるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加しています。施設内は施錠せず、自由に屋外に出る事が出来ません。身体拘束について、常々、職員間で確認し、周知徹底しています。	月例の危機管理委員会での勉強や、外部研修を受講した職員による伝達講習などにより、職員は身体拘束の内容と弊害を正しく理解し身体拘束しないケアに努めている。又、日中は玄関の施錠をせず、利用者の抑圧感のない自由な暮らしを尊重している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加しています。安全対策委員会で虐待について話し合い、職員に周知し防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用されている方がいらっしゃいます。関係機関と連携し、情報交換を行っています。また、新たにご希望の方がいらっしゃれば、必要に応じて支援させていただきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をもち、利用料金や重度化に伴うリスク・個人情報・秘密保持等、細かく説明しています。不安や疑問には丁寧に説明し、納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で意見や要望が話せる機会を設けています。入居者様には何でも話して頂ける生活環境を整えています。また、玄関先には意見箱を設置しています。日頃からコミュニケーションを図り、何でも話せる雰囲気作りに努めています。	家族が来訪の際、事務室でお茶を飲みながら意見・要望を聞くなど、家族が職員に話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。又、年1回、夏祭りの日に家族会を開いており、参加家族も多く、意見を聴く機会としている。出された意見は真摯に受け止め運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の意見や提案を聞き入れる機会多く設け、実行できるようにしています。	代表者や管理者は、職員と打ち解けた関係を築いており、常に職員の意見や提案に耳を傾けている。例えば、利用者に好評のランチバイキングも職員からの提案である。職員から出された意見や提案は、討議の上運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の自己評価を行い、職員の努力や能力を把握し、向上心を持って前向きに働けるよう、取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の個々のケアの能力や力量を把握しています。内外の研修に多く参加できるようにしています。また、新人職員には新人研修を行い、研修期間を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH勉強会・福祉関係の勉強会に参加しています。また、日頃から他事業所と連携を取り、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、入居者様の生活状況の把握に努めています。また、ご希望や不安な事などをお聞きし、職員間で共有し、入居後の不安の軽減に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内外等の環境を見学して頂いています。ご家族様の不安や疑問・困っていること等をお伺いし、安心してご利用して頂けるよう、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・家族様の想いや状態を把握し、必要とするサービスを見極め、提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、食事作りや洗濯物を干す・たたむ、菜園の花や野菜の手入れ等、出来る事は職員と共に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に施設新聞やお写真をお渡ししています。また、入居者様の体調の変化・気になる事があればその都度お伝えし、一緒に支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのお友達がよくお見えになっています。入居者様の好物(お菓子や果物)等を持って来て下さり、居室で一緒に召し上がられる事もあります。	馴染みの美容院や飲食店、医院などへの外出や、外泊などは、家族と協力しながら出来る限りその都度個別に対応し支援している。又、デイサービスを利用している友人などがホームに立ち寄り会話を楽しむなどの交流もあり、その際は訪れやすい雰囲気作りを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を常時把握していません。気の合う方と同席にしたり、気の合わない入居者様の間に職員が座る等し、入居者様同士の関係が円滑に進むように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談援助はお受けしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り入居者様のご希望に添うよう努力しています。思いや希望の把握が困難な方は行動を理解し、寄り添い、本人様に合わせながら支援を行っています。	職員は利用者との日々の関わりの中で、利用者の表情や雰囲気、会話から、本人の意向の把握に努めてる。気づいたことは、介護記録や申し送りノートに記録し職員間で情報を共有し、把握が困難な場合は本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、過去の事、趣味や好きな事等をお聞きしています。職員は入居者様の過去を把握し、日頃の介護に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録に、1日の生活の過ごし方を記録し、職員全員で共有しています。日勤・夜勤帯共に密な申し送りをを行い、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・家族様の意見を踏まえ、日頃の様子も加えて月1回カンファレンスを行っています。主治医の意見も聞き、介護計画を作成しております。	利用者ごとのケアカンファレンスは毎月、丁寧に実施している。職員間で話し合いながら、利用者・家族の要望を反映させ、必要に応じ主治医や訪問看護師などの助言を得て介護計画を作成している。又、定期的な作成に加え、利用者の状況変化に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に1日の生活を記入し、職員全員で共有しています。特記事項は申し送りノートに記載し、全員が把握しています。定期的にカンファレンスを行い、介護計画を見直し、サービスに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・家族様のニーズ、また、その都度生まれるニーズに合わせて対応できるように話し合いを行い、柔軟に対応するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーやコンビニへ買い物に出かけたり、訪問理美容などを利用して頂いています。年に2回、家族様をお誘いし、観光バスでの日帰り旅行を企画しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院への受診は利用者様・家族様が希望され行かれています。家族様が対応できないときは、職員が付き添っています。月2回往診医が来て下さり、指示を仰いでいます。体調の変化があった際は、随時受診しています。	かかりつけ医の選択は、本人と家族の希望にそっているが、ほとんどの利用者は月2回往診のある事業所の協力医をかかりつけ医としている。尚、利用者の受診情報は随時家族と共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を結んでいる訪問看護事業所の訪問看護師が週1回来て下さり、健康管理を受けています。緊急時に対応して頂いています。必要に応じて他医療機関への通院の支援も受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院関係者に日頃の状況をお伝えしています。入院中はお見舞いに行き、医師や看護師・家族様と相談しながら、早期退院に向けて話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化したときや終末期の看取りに関して説明を行っています。重度化したときは、主治医・家族様・職員で十分話し合い、方針を決めています。	利用者・家族には入居時に、提供できるケアの範囲や重度化した場合の対応について説明しており、状況変化に応じてその都度本人や家族の意向を確認し、医療機関と連携を図りながら支援に努めている。これまで看取りの事例はないが、ニーズに応じて対応できるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアル・救急マニュアルを作成し、施設内研修を行っています。また、AEDの設置を行い、職員全員が使えるよう、研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しています。また、食料品やオムツ類の備蓄を行い、災害に備え避難場所等の準備を整えています。	年2回の避難訓練には、利用者や地域住民も参加している。そのうち1回は消防署指導の下、避難経路の確認をしたり、消火器の使い方を習得したりしている。非常時には、近隣に住む職員が駆けつけられる連絡体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーに配慮しています。その方に合った声かけを行うよう、注意しています。	呼称は基本、名字に「さん」付けだが、利用者や家族の希望により、慣れ親しんだ呼び名にすることもある。又、職員は利用者の人格を尊重し、排泄や入浴時などには羞恥心に配慮した対応を心掛けている。個人情報の取り扱いには注意し、施錠できるロッカーなどに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望やしたい事等をお聞きし、出来る事は実行しています。表現出来ない入居者様に関しては、表情や態度を確認し、出来る限り自己決定して頂くように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を尊重し、ひとりひとりのペースに合わせ、安全に考慮しながらその人らしい生活が送れるよう、支援しています。個別性を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに合わせています。ご自分で着たい服を選んで頂く機会を作っています。毛染めやパーマ等を希望される方にはご家族様にご協力して頂き、美容院へ外出されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に合わせ、職員と共に調理や後片付けを行っています。食事は同じテーブルに着き、一緒に行っています。	利用者は自分の出来る範囲で食事の準備や片付けを手伝っている。献立には、利用者のリクエストや行事食メニュー、ランチバイキングなどを取り入れたり、月に1度のプチカフェや敬老の日の外食など、食事を楽しむ工夫がなされている。又、職員はさりげなく介助しながら一緒に食事をしており、食卓は会話も弾み和やかである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容が偏らないようにしています。食事量や水分量を毎日記録に残しています。水分量が少ない方は、好みの飲み物を購入し、必要水分量を摂取して頂くようにしています。いつでも飲水できるよう、自席に飲み物を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。ご自分で出来る方にはご自分で行って頂き、介助が必要な方には支援させて頂いています。必要に応じて、歯科医の往診を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の自立度に合わせ、対応させて頂いています。排泄パターンを把握し、表情や行動を理解することで、トイレの排泄を行えるよう、支援しています。	排泄チェック表と利用者の様子を確認することや、リハビリパンツを布パンツに変更するなどの工夫によって、夜間もポータブルトイレを置かずにほぼ利用者全員をトイレに誘導できている。出来る限り自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状態を記録し、職員全員が把握しています。食べ物の工夫・乳製品・牛乳や水素水などを飲んで頂き、自然排便に努めています。また、必要に応じて主治医に相談させて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を行っています。必要に応じ、好みのタイミングでの入浴も行っています。	利用者の希望があれば、毎日の入浴も可能であるが、ほとんどの利用者は2～3日に1回入浴している。入浴を拒む人には無理強いないせ、時間を置いて声掛けしたり、清拭に変更している。菖蒲湯やミカン風呂で季節を感じる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠パターンを把握しています。寝付けない方には、温かいお茶や牛乳を飲んで頂いたり、ゆっくりとくつろいで頂き入眠への支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個々の病名や内服薬は職員全員で共有できています。体調不良でお薬が変わる時は、口頭での申し送りや申し送りノートにも記載し、職員全体で把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様には、興味のある事や行きたい所などをお聞きしています。また、好きなお菓子や飲み物の購入、靴や衣類の買い物等を一緒に行っています。菜園のお花や野菜の手入れなどもお手伝い頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望により、散歩や買い物・ドライブ・外食・お花見など、気の合う仲間・職員と出かける機会を持っています。年2回、家族様をお誘いし、観光バスでの日帰り旅行も企画しています。	日常的な散歩や買い物、ドライブ、喫茶店での一服など利用者一人ひとりの希望にそって外出を支援している。園庭で日向ぼっこや外気浴などをして気分転換を図ることもある。又、年2回、普段はなかなか行けない遠方へも、家族も誘って日帰りバス旅行を楽しむ支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理されている方はいらっしゃいませんが、ご希望があれば、自己管理して頂けるよう支援します。出来る方は、レジ前でお金をお渡しし、ご自分で支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様をご希望時されたときには、電話をかけられるよう支援しています。家族様からの電話は職員が取り次ぎ、お話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな田園地域で、車の通りも少なく安全で静かな環境です。菜園で季節の野菜を栽培・収穫したり、花を飾るなど、季節を感じてもらえるような空間づくりに努めています。	ベージュトーンの食堂兼居間は落ち着いた雰囲気、適度な明るさ、室温である。室内には観葉植物や季節の飾りつけを施し、ソファを置くなどして、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。又、食堂兼居間には加湿器を設置して風邪やインフルエンザ感染の予防にも留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と一緒に過ごせるスペースがあります。また、静かにのんびりとひとりで過ごして頂けるスペースもあります。隣のユニットの友達といつでも行き来出来る環境になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使っていた思い出の品やご家族様の写真等を飾って頂いています。また、本人様の使いやすいように整理整頓されています。	居室には、利用者の家族写真や好みの小物品、使い慣れたクッションや寝具などが持ち込まれており、その人らしく、居心地良く過ごせるよう、工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、他の所は入居者様目線に合わせ分かりやすく明記されています。廊下や浴室には手すりを設置し、施設全体がバリアフリーになっており全体的に安全に過ごして頂いています。		